

DX推進の 取組みについて

2025年度版

代表取締役社長
CDXO (Chief DX Officer)
加藤 健



CONTENT

01

OECの「DXの定義」

02

DX戦略

03

全社DX

04

社内DX

05

社外DX

(I) OECが取り組む「DXの3つの領域」

①全社DX
(経営、組織の変革)

守りのDX

②社内DX
(業務効率化、生産性向上)

攻めのDX

③社外DX
(お客様に対する新たな価値提供)

(2)OECの「DXの定義」

「データやデジタル技術を活用した、業務効率化による生産性向上を図るとともに、お客様に対し、新たな製品・サービスの提供による課題解決や成長支援を行うことによって、持続的な成長と収益の拡大を実現すること」

OECのDX定義（広義のDX）

- データやデジタル技術の活用
 - ・情報化、デジタル化
 - ・業務効率化、生産性向上
(電子化、自動化、ペーパーレス等)
 - ・標準化、共通化
 - ・ワークライフスタイル変革 等



経産省公表のDX定義（狭義のDX）

- ・新たな製品・サービスの創出
- ・ビジネスモデルの変革
- ・業務、組織、プロセス、企業文化・風土の変革



競争上の優位性を確立する

【全社DX】 ■人的資本経営の実践

I. テクノロジーと人間力の向上

- (1) プロフェッショナル人財の育成
- (2) AIの多様な活用によるゆとりの醸成、新たな価値の創出

【社内DX】 ■生産性の向上と企業価値の向上

I. 社内DX/AI活用による生産性の向上

- (1) 生成AIの業務活用
- (2) DXワーキンググループの推進、組織横断による課題解決実施
- (3) 業務とデータの見える化
- (4) 開発ツールや環境の見直し、統一化による生産性向上

引用：中期経営計画

【社外DX】 ■ソリューション提供企業から価値提供企業へ

1.自治体との共通価値の創造

- (1)自治体基幹系システムの標準・共通化、ガバクラ化への対応と豊の国IaaSの活用
- (2)「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けた取組み

2.ウェルビーイングな社会を実現するプロダクト開発

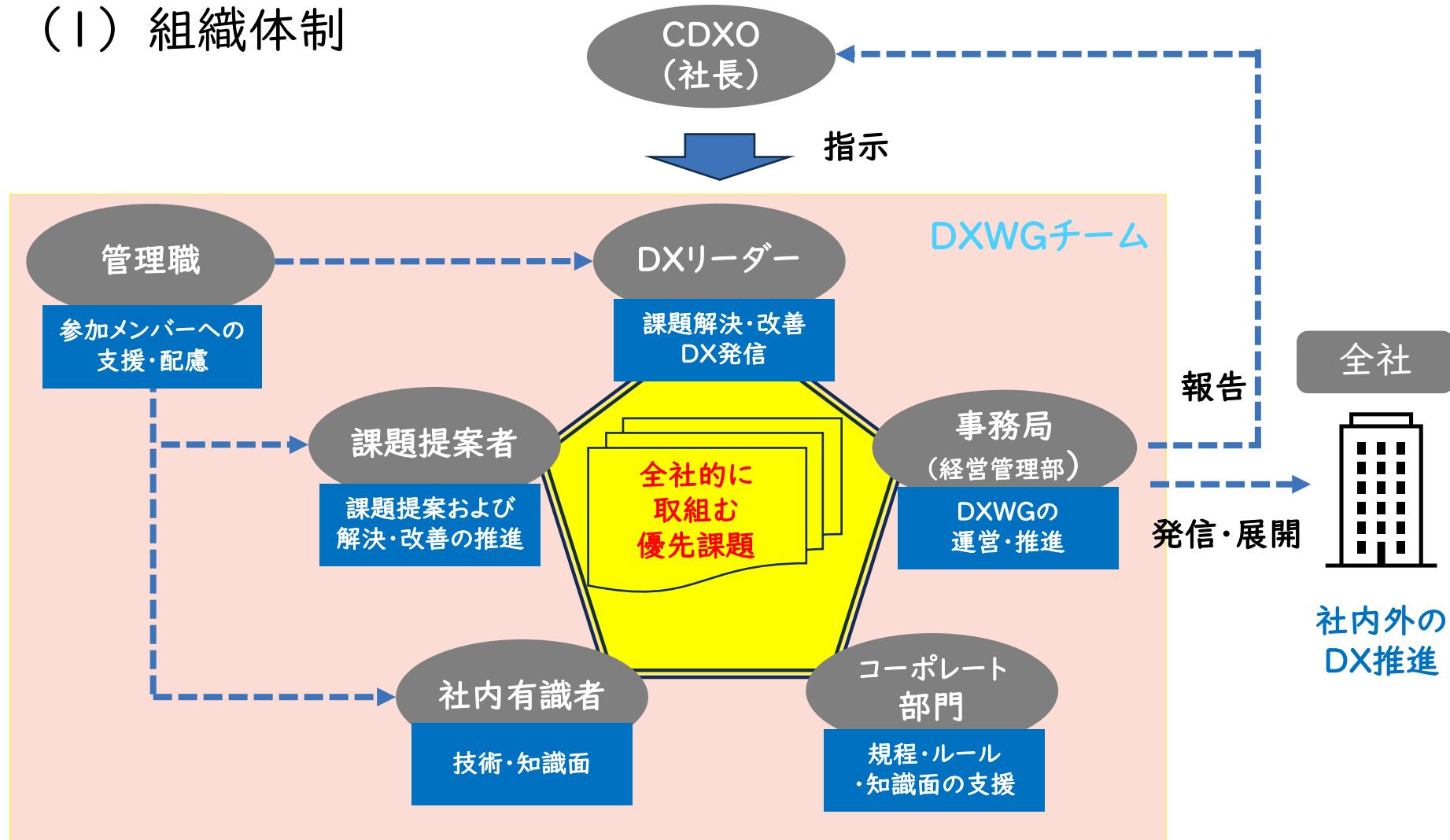
- (1)市場のニーズを反映させた新規パッケージの検討、実証、実現(民需、公共、標準化後の対応など)
- (2)既存パッケージの機能拡張やクラウド利用などの横展開の実施
- (3)ビジネス戦略に基づくプロダクト開発の実施(価値提案型)

3.地域や顧客に対するサービスの充実

- (1)自治体や地域のDX化の企画提案と構築・運用

引用：中期経営計画

(I) 組織体制



当社のDX戦略を加速させるため、代表取締役社長をCDXO（最高DX責任者）とした、DXWGチームを構成し、社内外のDXを推進している。

(2) DX推進指標

1) 價値提供企業へ転換を進めながら DXビジネスの割合の拡大・成長を目指す。

2026年度 売上目標 150億円

デジタルサービスの売上割合目標 15% (22.5億円)

2024年度 売上実績 132億円

デジタルサービスの売上割合実績 8% (10.6億円)

2) 價値提供企業への転換を進めるために以下の人財を育成する。

2026年度 デジタル人財目標数

- ・ DX人財 200名以上
- ・ クラウド人財 100名以上
- ・ 高度クラウド人財 30名以上

2024年度 デジタル人財数

- ・ DX人財 141名
- ・ クラウド人財 68名
- ・ 高度クラウド人財 5名

デジタル人財（定義）

DX人財：DX関連資格取得者

クラウド人財：ITSS認定試験・資格取得者

高度クラウド人財：ITSS認定試験・資格マップレベル3、

および社内レベル3相当資格取得者

(3) 社内教育、啓発活動

DX塾	定期的に、社内の技術展開やスキルアップを目的に「社内勉強会」を実施中。
DX取組み状況の共有	社内外のDXの取組み状況を公開し、社内での情報共有を行い他部署へ刺激を与えて全社の活性化を図っている。
資格取得の推進	合格祝い金や受験料補助の対象となる資格を追加した。 自己啓発の動機付け及び有資格者増加による全社スキル向上を目的としている。

(I) 環境整備

- ・生成AIサービスの全社員利用
- ・チャットボット（社内ナレッジ共有）
- ・GitHub
(プログラムやドキュメントのバージョン管理 → 社内標準化)
- ・受取請求書電子化システム
- ・WEB会議ツール
- ・ビジネスチャットツール
- ・WEBデータベース
- ・電子請求書発行システム
- ・WEB年賀状

(2) 具体的な事例

1.WEBデータベース活用による売上予測自動化

売上データの一元管理と自動集約を実現した。これにより、日々確認を行える環境を構築できた。売上データの見える化により、業務改善や迅速な経営判断につなげている。

2.生成AIサービスの全社員利用による業務効率化

全社員が生成AIを活用できる環境を整えた。今後、AI活用によって社員の「業務効率化による時間創出」を図る。全社員の日常的な業務利用率100%を目指す。

3.チャットボット（社内ナレッジ共有）

社内の規定やマネジメント資料を読み込ませることで社内FAQボットとしての活用し、問い合わせや検索時間の削減を図る。現在RAGを活用した環境を検証継続中。

(I) 地域DX・先進技術・新サービス

①まどメイト（窓口申請支援システム）

一度の本人確認により基幹システムと連携し、
申請者に必要な手続きが自動的にピックアップされるため
漏れがなく、異動などにより経験の浅い職員様でも対応が可能になる。

[窓口申請支援システム | サービス&ソリューション](#)
[株式会社オーイーシー／ソフトウェア開発・ネットワーク構築](#)



②Maphin（地図へのマッピングソリューション）

Web上の地図情報システムに情報を集約することで、
ブラウザを通じていつでも・どこでも・誰でも欲しい情報に
アクセスしたり、更新したりできるようになる。
これにより、業務の生産性向上や住民の満足度向上が期待できる。
受動喫煙対策、放置自転車対策、観光や防災、インフラ分野でも
活用が広がっている。

[地図へのマッピングソリューション | サービス&ソリューション](#)
[株式会社オーイーシー／ソフトウェア開発・ネットワーク構築](#)



(I) 地域DX・先進技術・新サービス

③Endpoint Guardian (エンドポイントセキュリティ)

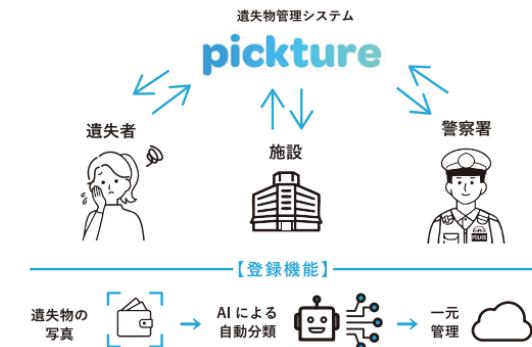
強力なセキュリティ機能とバックアップ機能を一つのエージェントで提供し、クラウドサービスによる使いやすい管理機能により運用の手間とコストを大幅に削減する。

[エンドポイントセキュリティ | サービス&ソリューション |
株式会社オーイーシー／ソフトウェア開発・ネットワーク構築](#)

④pickture (遺失物管理システム)

落とし物をスマホで撮影登録する際に画像認識AIを活用し、種類判別による問合せ対応の効率化を実現するソリューション。生成AIを実装することで運用コストを60%削減し、分類・検索精度を4.9%向上した。

[遺失物管理システム | サービス&ソリューション |
株式会社オーイーシー／ソフトウェア開発・ネットワーク構築](#)



⑤RAGチャット (情報検索・提供の高度化)

RAGは、テキスト生成に信頼性の高い独自の外部情報を組み合わせる技術。当社では社内規定や通達に関する問合せ対応の効率化に向け、RAG技術の実証実験を実施した。

(2) その他

■ 2024年度

1. Japan Drone2024(国内最大規模のドローン展示会)に 出展
2. 「日向市ドローン活用プログラミング体験教室」開催
3. 「宮崎科学技術館プログラミング教室」開催
4. 大分大学でA I プログラミング講義開催
5. 「うすき食文化祭2024」でドローンショーを実施
6. 太平洋セメント株式会社大分工場でDX研修の実施
7. 「おおいたドローンフェスティバルin杵築」開催
8. 新会社「おおいたプラット株式会社」設立
9. 窓口DXaaS認定事業者として採択

(2) その他

■2025年度

1. 衛星データ事業共創プログラム

「SateLab（サテラボ）」に共創パートナーとして参画

2. Japan Drone 2025への出展3. 大分県および大分県内16市町村のガバメントクラウド接続を実現4. おおいたキッズプログラミングコンテスト2025開催5. 大分大学でAIプログラミング講義の実施6. 「pickture」と「ワスラック」とのサービス連携

Thank you



 <https://www.oec.co.jp/>

Action! Playful!

テクノロジーと人間力で
ウェルビーイングな社会を実現する

